



## <第55回全道ロシア語弁論大会>

全道ロシア語弁論大会はコロナ禍にあった数年はオンライン形式で行われていましたが今年からまた対面形式に戻りました。本校の2年A組の今井琴梨さん、3年A組の椎名晃一さん、3年D組の柴田栞奈さんが参加してきました。出場したのは、質疑応答なしでスピーチ3分の総合審査Bクラスでした。

例年より規模が少し小さくなり、参加者や来賓も少なくなりました。「どんなご時世であろうが、人と人のつながりの大切さを意識しながらこれからもこの大会を続けたい。」と主催者である日本ユーラシア協会北海道連合会の会長が述べました。

椎名さんは去年同大会に2位という成績を収めた経験もあり、また挑戦したいという気持ちが強かったため今年度の参加を決めました。

スピーチのテーマは授業でならったプーシキンの愛についての詩がきっかけになり、「日本とロシアの詩、愛の表現」にしました。

柴田さんは「ことわざについて」、今井さんは「おふくろの味各国の家庭料理」というテーマについて考えをまとめて発表しました。2ヶ月くらい日本語にないイントネーションや発音を練習してきました。審査員は大学の教員で、4名のうちロシア語文化圏の方は3名でした。オリジナリティや表現力を重視していた印象を受けました。

椎名さんは完璧にスピーチを暗記したわけではありませんが、堂々と表現力を発揮し、ロシア人に好まれるプーシキンをテーマにしたため、3位になることができました。

おめでとうございます。

大会終了後、参加者の大学生や社会人と楽しく交流もできました。来年も、札幌に行きたい人を募集します！



表彰式が終わり、緊張感から解放：柴田さん、椎名さん、今井さん



有名な詩人プーシキン  
1830 自画像



## <第19回「話してみよう韓国語」青森大会>

この大会は、韓国語を学んでいる人や韓国に興味がある人なら誰でも参加できます。中高生からシニア学習者まで、皆が楽しく発表し、国境と世代を越えて語り合える日韓交流の場にもなっています。本校からは、中高生スキット部門に2年生6ペア、計12名が、弘前市で開催された大会に参加しました。

スキットは前半は全員共通の内容で、後半は各ペアが自由に考えます。今年のテーマは「お祭りの食べ物」で、各ペアが韓国の屋台フードについて、韓国ドラマやK-POPアーティストの話を交えながら発表しました。



審査の結果、2年A組の三上莉心さん・布田沙月さんペアが見事最優秀賞を受賞することができました。2人は3月に東京で開催される全国大会に出場します。おめでとうございます。全国大会でも思う存分、自分たちのパフォーマンスをしてきてほしいと思います。

この大会はスキット部門のほかに、スピーチ部門・自由発表部門があります。自由発表はK-POPアーティストのダンスをカバーするグループが多く、韓国語ができなくても参加することができる大会です。ぜひ皆さんも来年の「話してみよう韓国語」の大会に参加してみませんか。

## 【課題研究を発表：日本語と英語！】

12月20日国際コミュニケーション科(2年生)の活動の一つとして、課題研究の成果を英語で発表する会を開催しました。学級閉鎖等の事情で準備時間が足りなくなりましたが、全員頑張りました。

今年度は、秋田で観光に携わっているグローバルプロモーションの佐藤奈央維氏の講演会の影響もあり、観光関係のテーマが多くなっています。グループごとに課題研究を進めました。テーマは「能代の人口流出について」「能代の人口減少」「地域を賑わす」「キャッシュレスの導入」「外国人観光客のタトゥー対応問題」「タトゥーについて」などです。当日は発表会を開き、青年会議所の方も聞きにいらっしゃいました。2月に他校と一緒に令和5年度AKITAグローバルネットワーク事業の発表会に参加し、英語で発表します。

